

成蹊大学図書館 2017年度企画展示

海螺齋沿海州先占記

黒死館殺人事件

小栗

大 魔 城
～ PANDEMONIUMの扉を開く～
MUSHITARO OGURI COLLECTION

虫太郎

『完全犯罪』
初公開となる
直筆原稿（揃）をはじめ、
日記、家族写真など、
遺族からの寄贈も含めた
貴重な資料が並ぶ。

2017 11/13 MON. 2017 12/1 FRI.

（土曜・日曜・祝日を除く。ただし11/25土曜は公開）

成蹊大学図書館 2階アトリウム 9:30～16:30（受付は16:00まで）

※学外の方も閲覧可能です。身分証を持参の上、2階カウンターまでお越しください。

ギャラリートーク開催 2017 11/25 SAT.

※詳細は成蹊大学図書館 Web サイトをご確認ください。

<http://www.seikei.ac.jp/university/library/>

小栗虫太郎の世界へ

MUSHITARO OGURI MARCH 14, 1901 - FEBRUARY 10, 1946

小栗虫太郎は、昭和8年(1933)にデビューするや、探偵小説新潮流の旗手と目され、専門誌大衆誌のみならず「中央公論」「改造」などの総合誌でも活躍したミステリー作家です。巷間「三大奇書」などと称される銜学の大伽藍『黒死館殺人事件』が飛び抜けて著名の作ですが、犯罪心理を克明にたどる怪異小説や、波瀾万丈の伝奇小説、緊迫した国際情勢のもとで書かれた秘境冒険小説など、多彩に構築された文学世界は、まさに pandemonium(大魔城)と名付けても過言ではないでしょう。

平成28年(2016)夏、この小栗虫太郎の草稿類を含む関係資料が古書人札会に出品されて話題を呼びましたが、成蹊大学図書館が落札購入しました。このことは資料の散逸劣化を危惧していた多方面から歓迎されましたが、ことに小栗虫太郎のご遺族の皆様たいへん喜んでいただき、同年暮れには本学訪問の上、それぞれのもとに遺されていた資料のご寄贈を賜りました。この時、デビュー作『完全犯罪』の不揃いだった清書原稿が、少なくとも30年、あるいはその倍以上の時を隔てて完全に揃うという「事件」もあったのです。

『完全犯罪』の他にも、新収蔵資料には多くの草稿やメモがあり、小栗虫太郎の創作過程や作家像の解明が期待されます。きちんとした分類整理はしばらく先となりましようし、私たちの研究の蓄積も十分とは言えません。しかしだからこそ、そのための一歩を踏み出したいという思いで、今回の小栗虫太郎展となりました。「扉を開く」としたゆえんです。どのように足を踏み入れ、どのように進むべきか。ご理解ご賛同とともに、ご助言を賜れば幸いです。

監修／成蹊大学文学部教授 浜田 雄介

原稿『完全犯罪』

全110枚のうち、冒頭を除く109枚は昭和61年(1986)頃に存在が確認されていたが、今回、遺族寄贈資料の中に該当する冒頭ページが発見された。冒頭ページ欄外に当時の住所が記され、投稿を意図して清書された物とわかるが、初出形とはなお随所に異同がある。

原稿『黒死館殺人事件』

原稿用紙のはじめ数行に「黒死館殺人事件」の一節が記された書き損じの原稿だが、書き損じゆえに作品にならなかった世界の可能性を垣間見せる。写真3枚のうち2枚は書き損じの後、「成蹊園魔城」の下書きに使われている。



SEIKEI 成蹊大学

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

お問い合わせは成蹊大学図書館まで
<http://www.seikei.ac.jp/university/library/>
TEL 0422-37-3544 (図書館事務室)
Eメール lib@jim.seikei.ac.jp

